

[表2] 生徒への指導援助に関するチェックリストの結果

No.	治療的援助		予防的援助		開発的援助	
	項目	人数 (%)	項目	人数 (%)	項目	人数 (%)
1	指導者の姿勢	42 40.0	指導者の姿勢	23 21.9	健康	14 13.3
2	生徒理解	35 33.3	生徒理解	36 34.3	安全	11 10.5
3	早期発見	48 45.7	早期発見	31 29.5	所属感	35 33.3
4	ラポール形成	51 48.6	ラポール形成	50 47.6	愛情	41 39.0
5	問題把握	①87 82.9	問題把握	②85 81.0	自律	14 13.3
6	指導態勢	37 35.2	指導態勢	43 41.0	自己理解	②63 60.0
7	専門機関連携	③68 64.7	専門機関連携	①92 87.6	自尊	34 32.4
8	本人援助	42 40.0	本人援助	62 59.0	自主性	③54 51.4
9	家庭援助	44 41.9	家庭援助	65 61.9	他者尊重	20 19.0
10	学級援助	40 38.1	学級援助	33 31.4	将来	20 19.0
11	振り返り	②69 65.7	振り返り	③70 66.7	生徒理解	①71 67.6
12	援助終了	30 28.6	援助終了	35 33.3	家庭連携	45 42.9

合計値が治療的援助では①『問題の把握』82.9%, ②『指導の振り返り』65.7%, ③『専門機関連携』64.7%の順で高い結果となっている。予防的援助では、①『専門機関連携』87.6%, ②『問題の把握』81.0%, ③『指導の振り返り』66.7%の順で高く治療的援助と順位は異なるものの、ま

たく同じ項目である。

開発的援助では、①『生徒理解』67.6%, ②『自己理解』60.0%, ③『自主性』51.4%の順で高くなっている。

相談的教師のチェックリスト (試案)

No.	チェック内容	5 いつも(とても)	4 時々(だいたい)	3 どちらとも	2 あまり	1 ぜんぜん
1	先生は、生徒一人ひとりによく声をかけている。	5	4	3	2	1

[以下のチェック内容]

- 先生は、自分から生徒にあいさつし、笑顔で接している。
- 先生は、生徒一人ひとりをよく気にかけている。
- 先生は、生徒一人ひとりの気持ちをよく受けとめている。
- 先生は、生徒一人ひとりの話をよく聴いている。
- 先生は、生徒と一緒に活動している。
- 先生は、生徒一人ひとりの気持ちを大切にしている。
- 先生は、生徒一人ひとりのよさをわかっている。
- 先生は、どの生徒にも分け隔てなく接している。
- 先生は、自分の間違いを素直に認める。
- 先生は、善悪の判断が、公正で、自分の感情で生徒を叱らない。
- 先生は、適切に生徒を認めたり、ほめたり、励ましたりして自信や意欲を持たせている。

[図17] 相談的教師のチェックリスト (試案)

(3) 考察

チェックリスト試行の結果から、治療的と予防的指導援助では、『問題の把握』、『指導の振り返り』、『専門機関連携』の3点が、特に不足していることが明らかとなった。

また、開発的援助では、『生徒理解』、『自己理解』、『自主性』の3点が不足していることが明らかとなった。

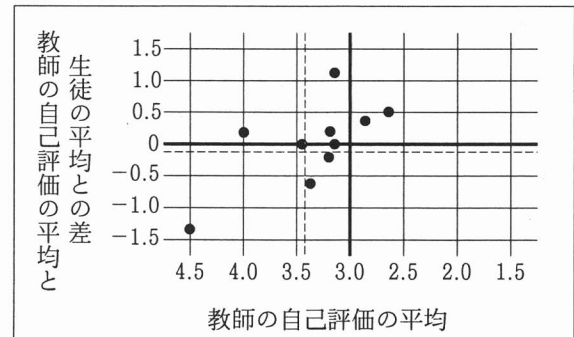
各指導援助で値の高いこれらの項目は、特に、教師が生徒指導・教育相談を進めていく上での見直し項目であり、チェックリストの実施は、具体的な対応の力量を高めていくきっかけとして、極めて効果が大きいと考えられる。

4. 相談的教師のチェックリスト (試案) の開発と試行

(1) チェックリスト (試案) の開発

チェックリストの概要は、【図17】の通りである。<sup>7)</sup>

(2) 試行の結果



[図18] 相談的教師のチェックリストの結果

チェックリストは、受容、共感、自己一致の3つ

の項目各4問、計12設問について、「5.いつも(とても)」, 「4.時々(だいたい)」, 「3.どちらとも」, 「2.あまり」, 「1.ぜんぜん」の5段階で質問した。

【図18】は、横軸を教師の自己評価の平均、縦軸を教師の自己評価の平均と生徒の平均との差とし、対象教師の値を図上にプロットしたものであ